

災害を知る。

台風・豪雨

伊勢湾台風

昭和34年9月26日に紀伊半島に上陸した伊勢湾台風は、全国に被害を与え、死者・行方不明者数は5,098人に及びました。犠牲者は32道府県に及びましたが、高潮の発生によって、その83%が愛知県と三重県に集中しました。

刈谷市でも人口の約26%が被災するという大きな被害が出ました。

刈谷市の被害

- ・被災者総数：15,030人
- ・死者：14人
- ・負傷者：105人
- ・建物被害：9,940戸（うち床上浸水250戸）



▲台風により倒壊した家（井ヶ谷町）



▲高潮による流木の山（司町付近）



▲伊勢湾台風追憶碑（城町）
伊勢湾台風を忘れないように、刈谷球場の西側に石碑が立っています。

東海豪雨

平成12年9月11日から12日にかけて、日本付近に停滞していた秋雨前線に台風14号からの暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動を刺激し、記録的な大雨となりました。愛知県内の死者数は7人、床上浸水は22,077世帯に及びました。

刈谷市でも時間最大雨量が112.5mmを記録し、深刻な浸水被害が生じました。

刈谷市の被害

- ・被災者総数：1,211人
- ・床上浸水：423世帯



▲豪雨により増水した逢妻川

地震

過去、東海地方では、いわゆる南海トラフ地震や直下型の大地震が繰り返し発生しており、刈谷市でも大きな被害が出ています。これらの地震は今後も発生が懸念されており、十分な警戒が必要です。

地震の概要

刈谷市の被害

1854年

嘉永7年11月4日 安政東海地震

駿河湾から紀伊半島東部沖にかけての南海トラフ沿いで発生した大地震。マグニチュードは8.4と推定され、死者は数千人、倒壊家屋は3万軒以上という大きな被害を全国でもたらしたとされます。

刈谷市の震度は6と推定され、資料には「大ゆりにて人家悉くゆがみ、津波にて半潰になる」と記されています。

1944年
1945年

昭和19年12月7日 昭和東南海地震

南海トラフと陸地との中間あたりを震源として発生した典型的な南海トラフ系の大地震。マグニチュードは7.9と推定され、授業、勤務時間帯に重なったこともあり、学校や工場などを中心に全体の死者・行方不明者数は1,223人に及びました。

- ・刈谷市震度：6（推定）
- ・死者：6人
- ・負傷者：17人
- ・住家全壊：561戸
- ・住家半壊：1,515戸

2019年

昭和20年1月13日 三河地震

三河湾のほぼ中央部で発生した直下型の大地震。マグニチュードは6.8と推定されています。1か月前の東南海地震により建物に損傷が残っていたことや、地震発生が深夜であったこともあり、全体で2,306人が亡くなりました。

- ・刈谷市震度：6（推定）
- ・死者：13人
- ・負傷者：99人
- ・住家全壊：297戸
- ・住家半壊：766戸

災害は必ず起こる。

平成28年の熊本地震、29年の九州北部豪雨、30年の西日本豪雨。近年、大きな被害をもたらす自然災害が毎年のように起こっています。しかし、「自分の身の回りではこんな災害は起こらないだろう」と無意識のうちに思い込んでいる人は多いのではないのでしょうか。

昭和20年の三河地震、34年の伊勢湾台風、平成12年の東海豪雨など、刈谷でも大きな自然災害が実際に起こっています。今回の防災特集では、過去に刈谷で起きた災害から、明日起こるかもしれない大災害への備えを考えます。

問 危機管理課（☎62-1190）

伊勢湾台風により屋根を飛ばされた小高原小学校の校舎

伊勢湾台風による流木で打ち砕かれた家（司町付近）